

平成30年度環境問題に関するアンケート調査結果(概要)【県民】

1. 調査の概要

1. 1 調査の目的

群馬県では、平成28年3月に策定した「群馬県環境基本計画2016-2019」に基づいて、良好な環境の保全と創造を実現するための施策を総合的に実施している。本計画が平成32年3月で終期を迎えることから、現在これに続く新計画の策定作業を進めている。

本計画の策定に当たり、県民、事業者、関係団体の環境問題に関する意識等を把握するため、アンケート調査を行ったもの。

1. 2 調査の方法

(1) 調査対象

群馬県内在住の満18歳以上の男女 2,000人

(2) サンプルング方法

多段階無作為抽出法(抽出台帳は選挙人名簿)

(3) 調査方法

郵送配布、郵送回収(督促状送付1回)

(4) 調査期間

平成30年12月14日～12月28日

1. 3 回収状況

有効回収数:992 (回収率:49.6%)

圏域名	市町村	有効回収数	回収率
1. 前橋圏	前橋市	160	49.4%
2. 渋川圏	渋川市、榛東村、吉岡町	57	47.4%
3. 伊勢崎圏	伊勢崎市、玉村町	95	45.2%
4. 高崎・安中圏	高崎市、安中市	181	56.0%
5. 藤岡圏	藤岡市、上野村、神流町	39	58.9%
6. 富岡圏	富岡市、下仁田町、甘楽町、南牧村	44	39.8%
7. 吾妻圏	中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町	31	45.1%
8. 利根・沼田圏	沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町	52	50.0%
9. 太田・館林圏	太田市、館林市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町	174	50.3%
10. 桐生圏	桐生市、みどり市	76	42.8%
	無回答	83	5.6%
	合計	992	49.6%

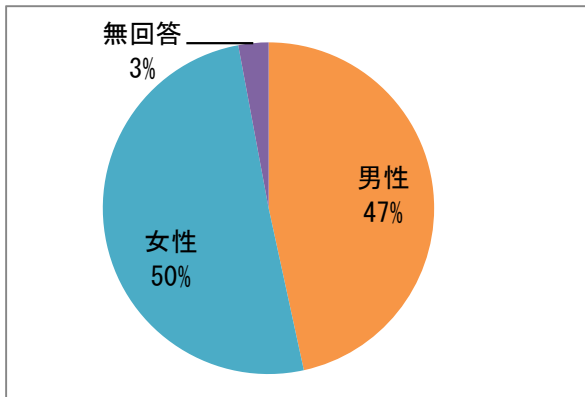
1. 4 調査項目概要

質問項目	ねらい
【環境問題に対する関心】	
問1 (1)社会問題についての関心度 (2)環境問題についての関心度	・県民の社会・環境問題に対する関心度を把握する。
【身のまわりの環境】	
問2 (1)身のまわりの環境の満足度 (2)生活環境全般の満足度	・身のまわりの環境・生活環境全般の満足度を把握。
問3 5、6年前との比較 (1)身のまわりの環境 (2)意識・行動 (3)実践のきっかけ (4)実践しない理由	・身のまわりの環境について経年変化を比較・検討する。
問4 県に求められる取組	・快適で住みよい環境を確保するための取組を把握する。
【環境問題に関する情報源】	
問5 環境問題に関する情報源	・利用されやすい情報源を把握し、県が情報提供を行う際の参考とする。
問6 県の環境情報をどこから得ているか	・県の環境情報をより利用しやすいものにするための検討材料として活用する。
問7 今後知りたい情報	・県が行う情報提供内容の検討材料として活用する。
【取組】	
問8 環境保全に対する取組	・県民レベルでの取組状況と経年推移を把握し、支援策などの検討材料とする。
【地球温暖化防止】	
問9 地球温暖化防止のための心がけ	・県民レベルでの地球温暖化防止策の取組状況と、今後の意向を把握する。
問10 県に求められる取組	・県に求められる重点施策への要望を把握する。
【生物多様性の保全】	
問11 (1)自然環境の変化 (2)植物や動物の変化 (3)活動への参加 (4)生物多様性の認知度 (5)人間活動との関係との認知度 (6)保持のための取組の支持	・自然環境の経年変化に対する意識を確認する。 ・自然環境を保全する活動への参加度を確認する。 ・生物多様性の認知度を確認する。 ・生物多様性の危機と人間関係との関係の認知度を確認する。 ・生物多様性の保全の取組を確認する。
【属性】 性別、年齢、職業、圏域、地域の状況、居住期間、出身都道府県	

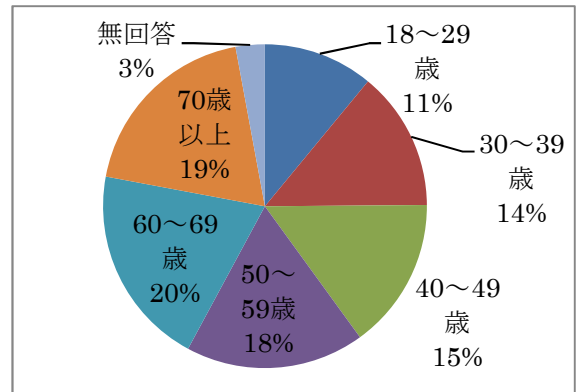
※ 経年変化による比較は、平成17、22、27年度と行い、平成18年度以降に追加された設問については、その年度との比較を行う。

2. 回答者属性

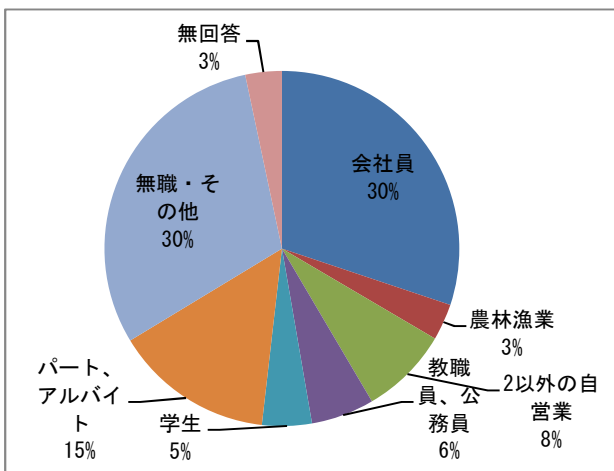
(1) 性別



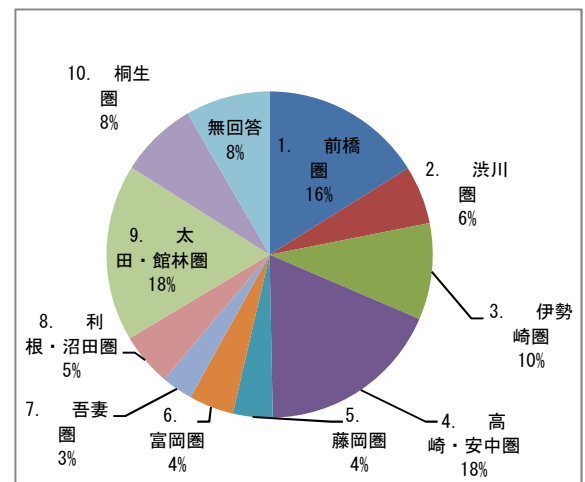
(2) 年齢



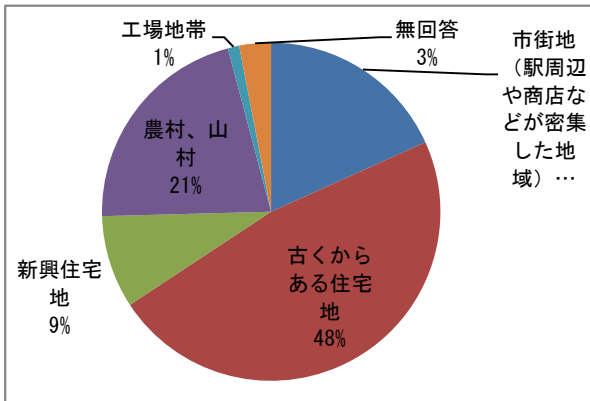
(3) 職業



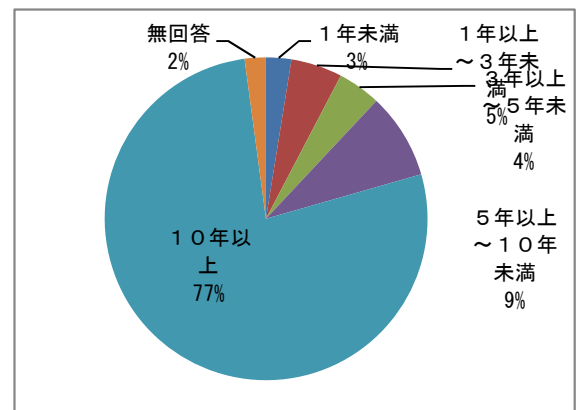
(4) 圏域



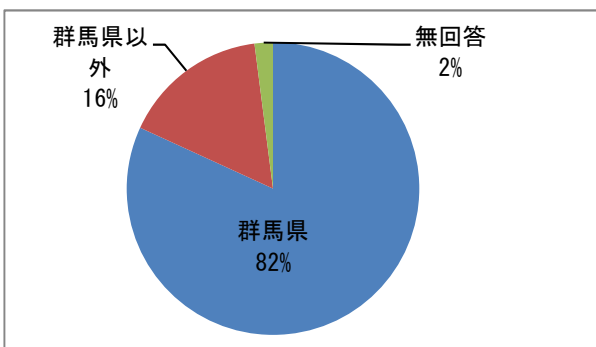
(5) 地域の状況



(6) 居住期間



(7) 出身都道府県



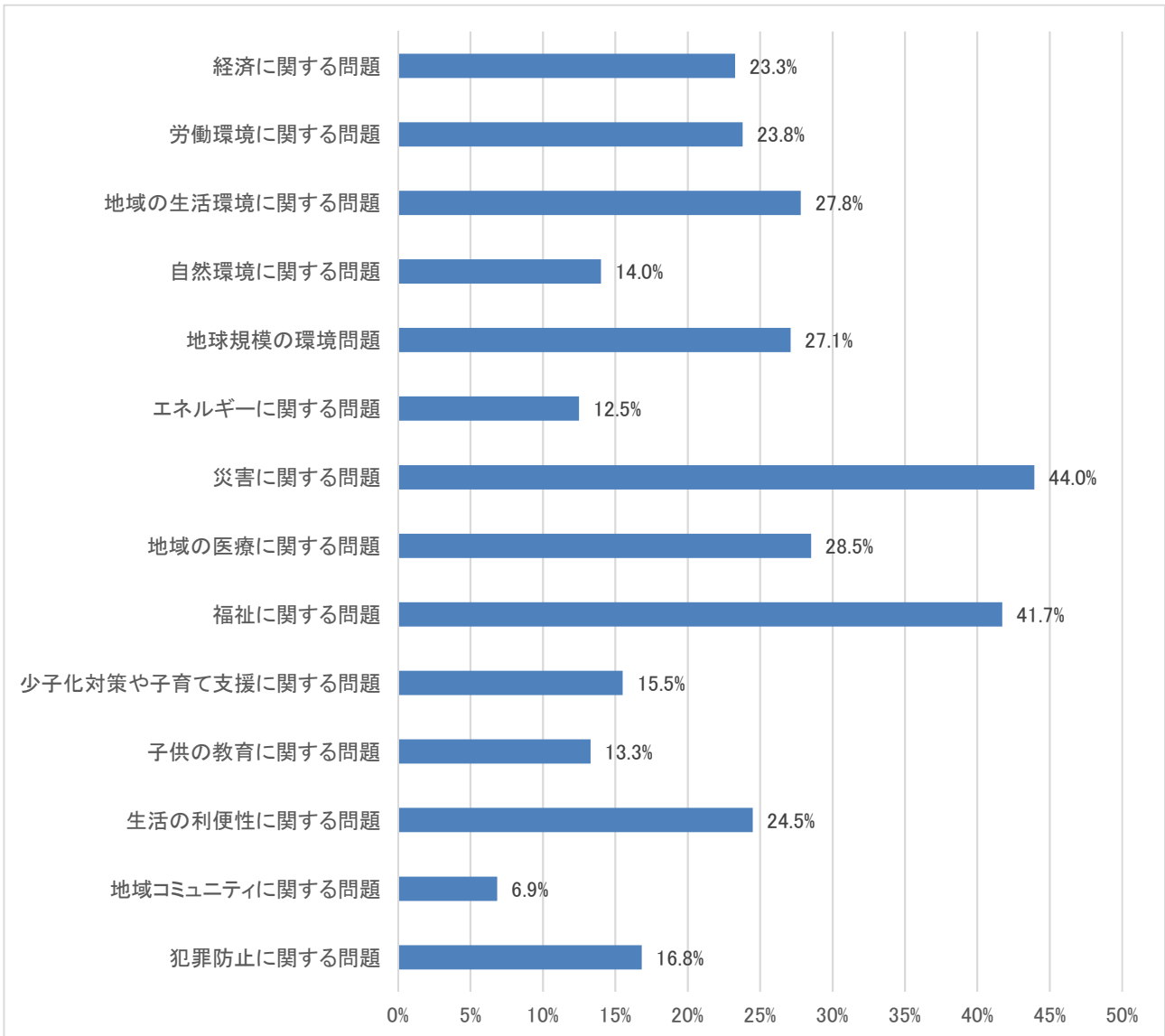
3. 調査結果

3. 1 調査項目別要旨

I 環境問題に対する関心

□ 様々な社会問題の中で非常に関心が高いのは、「災害に関する問題(44.0%)」「福祉に関する問題(41.7%)」「地域の生活環境に関する問題(27.8%)」。

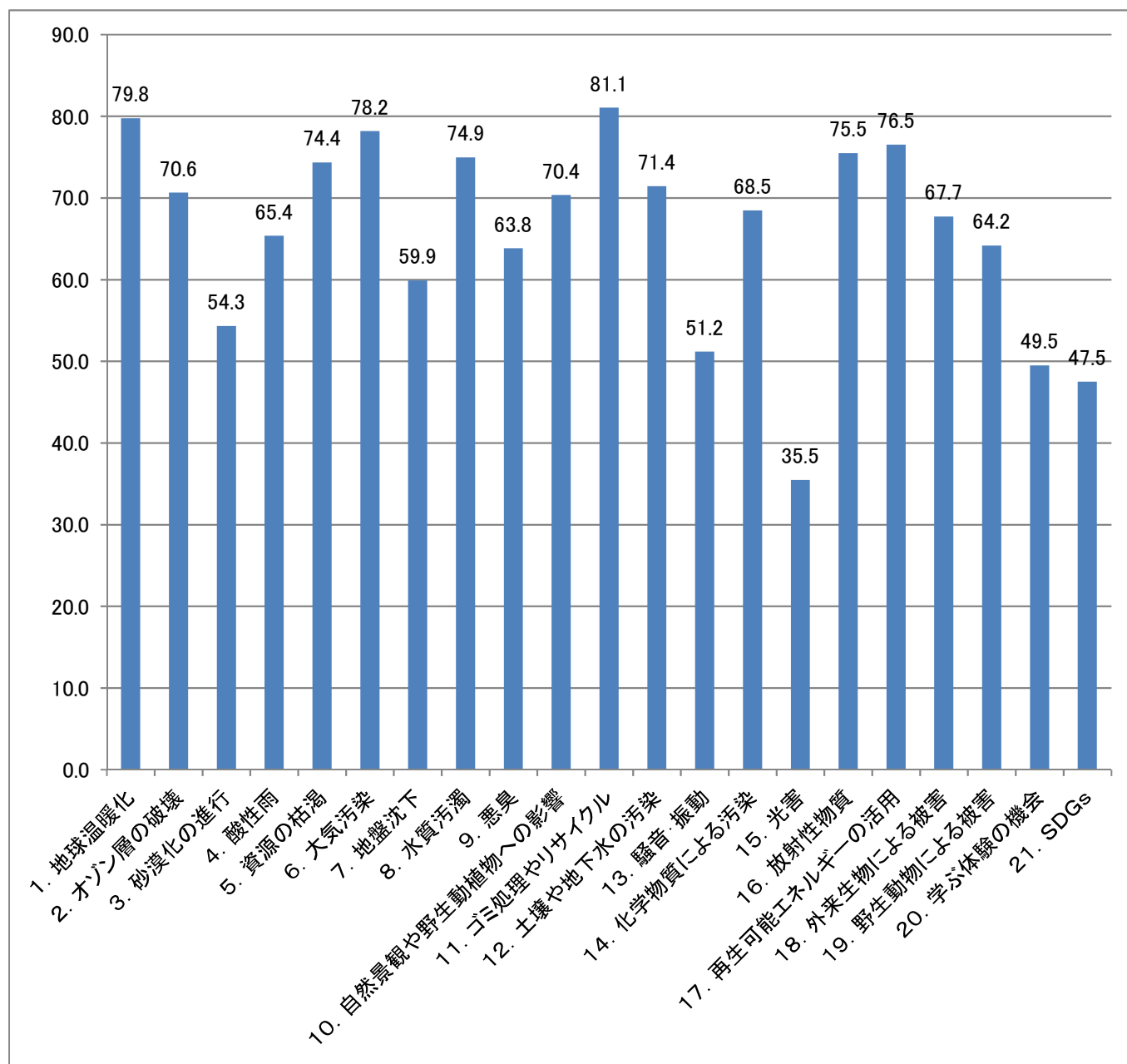
(1)30年度の傾向



< グラフ 1 社会問題で関心がある項目 >

□ 様々な環境問題の中で非常に関心が高いのは、「ゴミ処理やリサイクル(91.8%)」「地球温暖化(91.6%)」「大気汚染(91.8%)」。

(2)本設問では、「非常に関心がある」=100点、「関心がある」=75点、「関心がない」=0点とし、加重平均を与え、指標化して傾向・推移をみた。



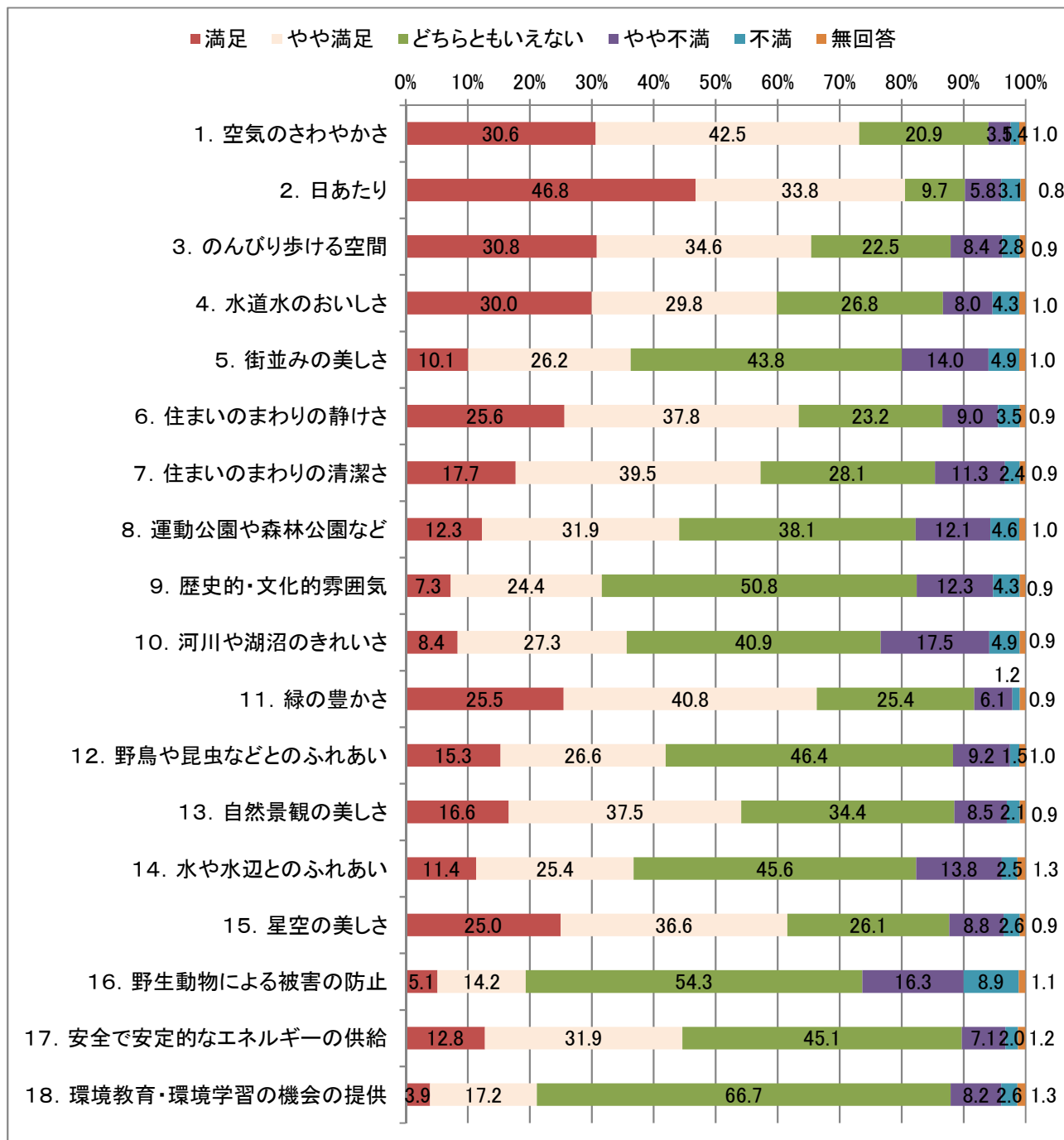
<グラフ 2 個別環境問題の関心度 加重平均>

Ⅱ 身のまわりの環境

□ 満足度が高いのは、「日あたり(80.6%)」「空気のさわやかさ(73.1%)」

→ 逆に、満足度が低いのは、「野生動物による被害の防止(25.2%)」「河川や湖沼のきれいさ(22.4%)」。

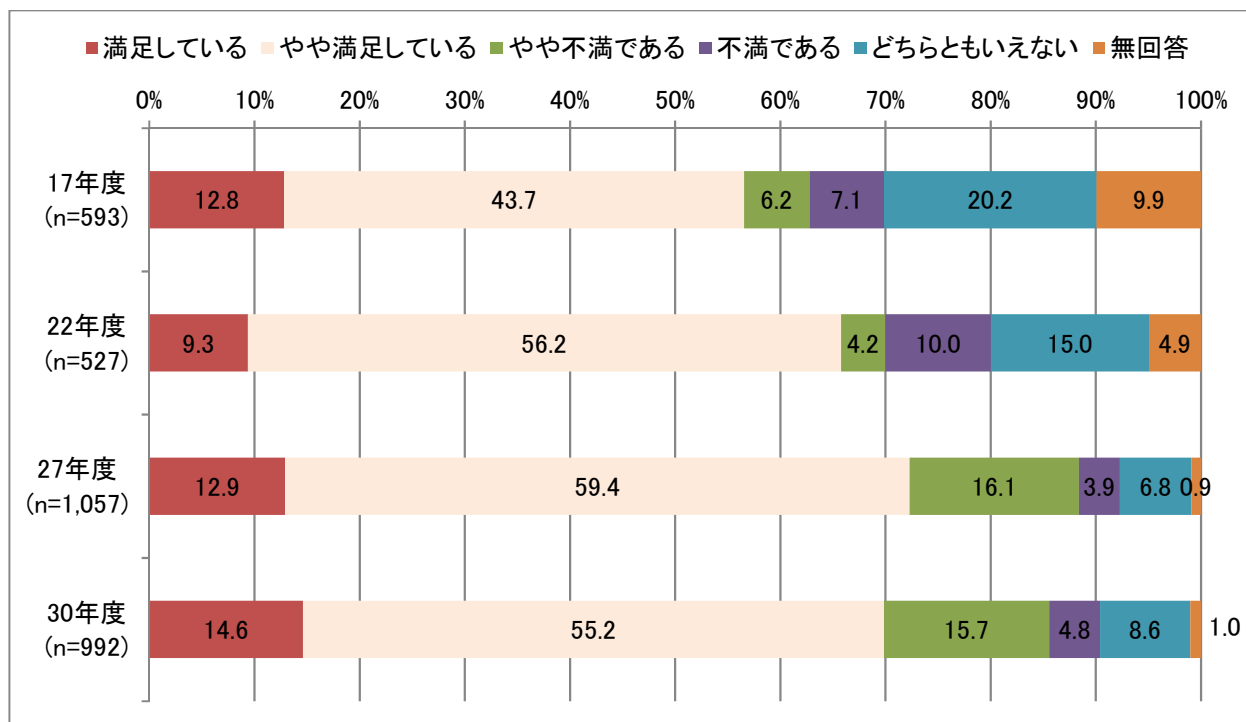
(1)30年度の傾向



<グラフ 3 身のまわりの環境に対する満足度>

□ 生活環境全般については、約7割が「満足(69.9%)」。

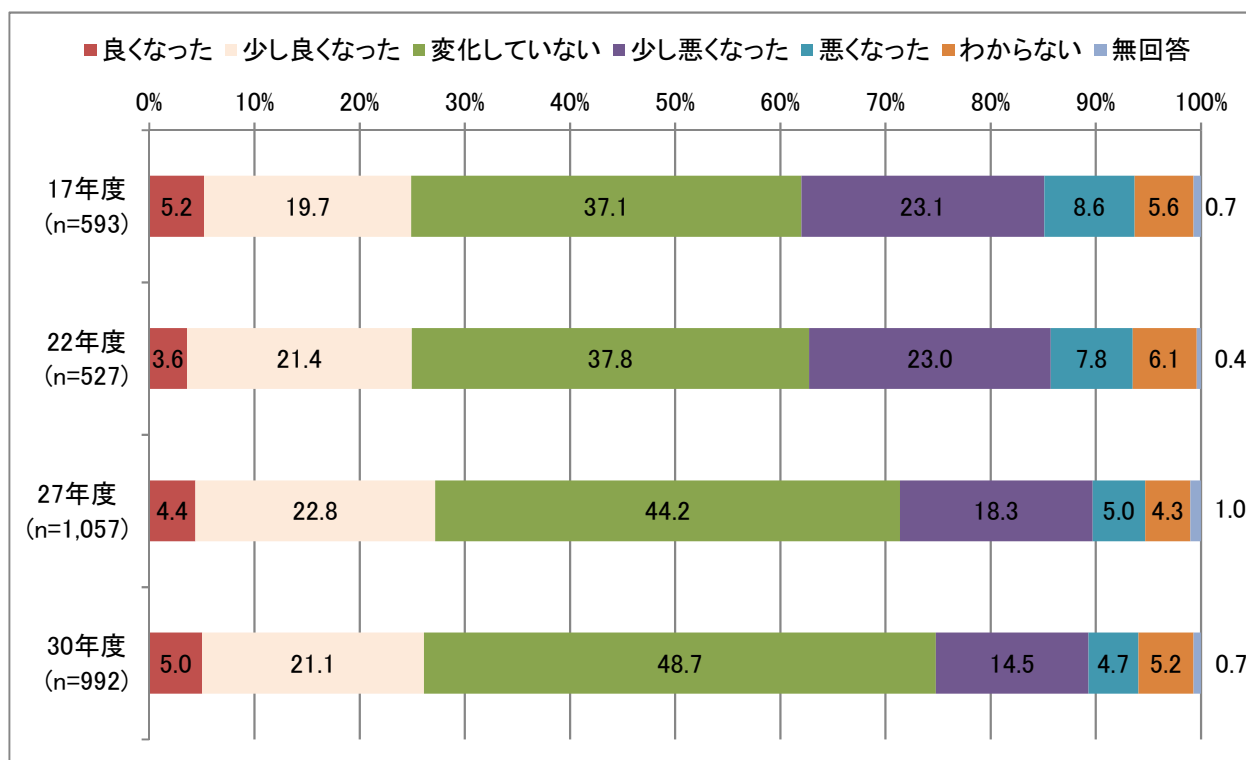
(1) 経年推移



<グラフ 4 生活環境全般の満足度 経年推移>

□ 5、6年前と比べて、約2割5分が身のまわりの環境が「良くなった(26.1%)」。
 → 逆に約1割5部が「悪くなった(14.7%)」、約5割が「変化していない(48.7%)」。

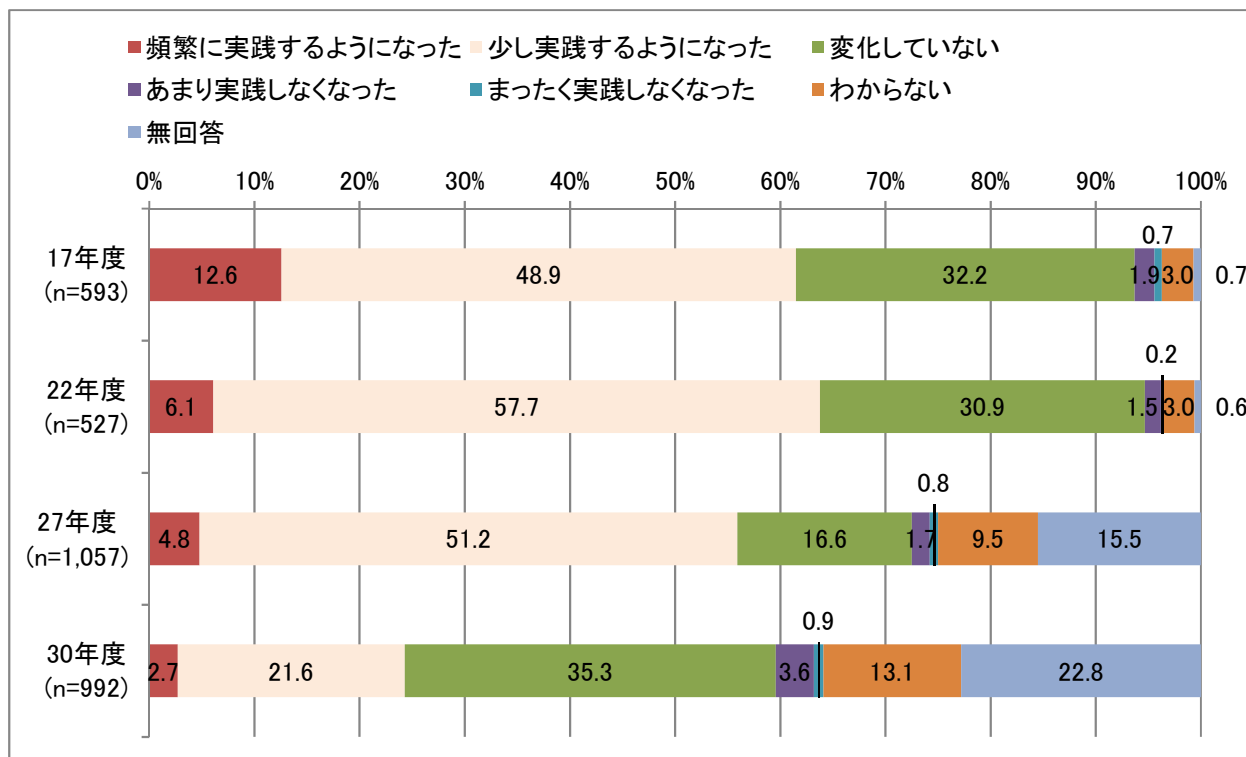
(1) 経年推移



<グラフ 5 身のまわりの環境の変化 経年推移>

□ 5、6年前と比べて、約6割が「環境への関心が深まった(57.4%)」。
 しかし一方で、約2割5分だけが「実践するようになった(24.3%)」。
 → 関心が深まる一方で、実践は「変化していない(35.3%)」。

(1) 経年推移



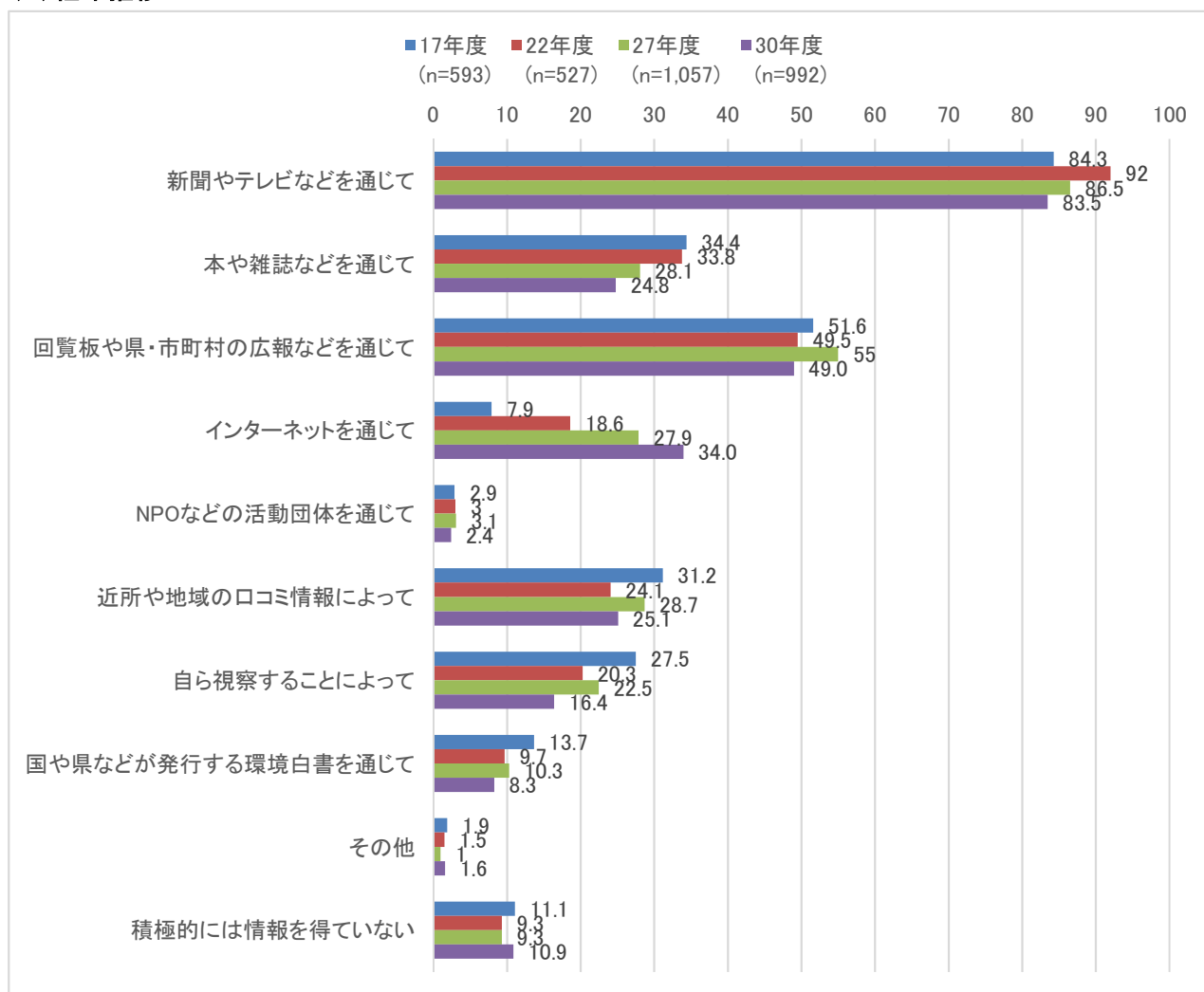
<グラフ 6 環境問題に関する行動の変化 経年推移>

Ⅲ 環境問題に関する情報源

□ 環境問題に関する1番の情報源は、「新聞やテレビ(83.5%)」。

→ 「インターネット(34.0%)」の割合も年々、増加、第3位の選択肢に。

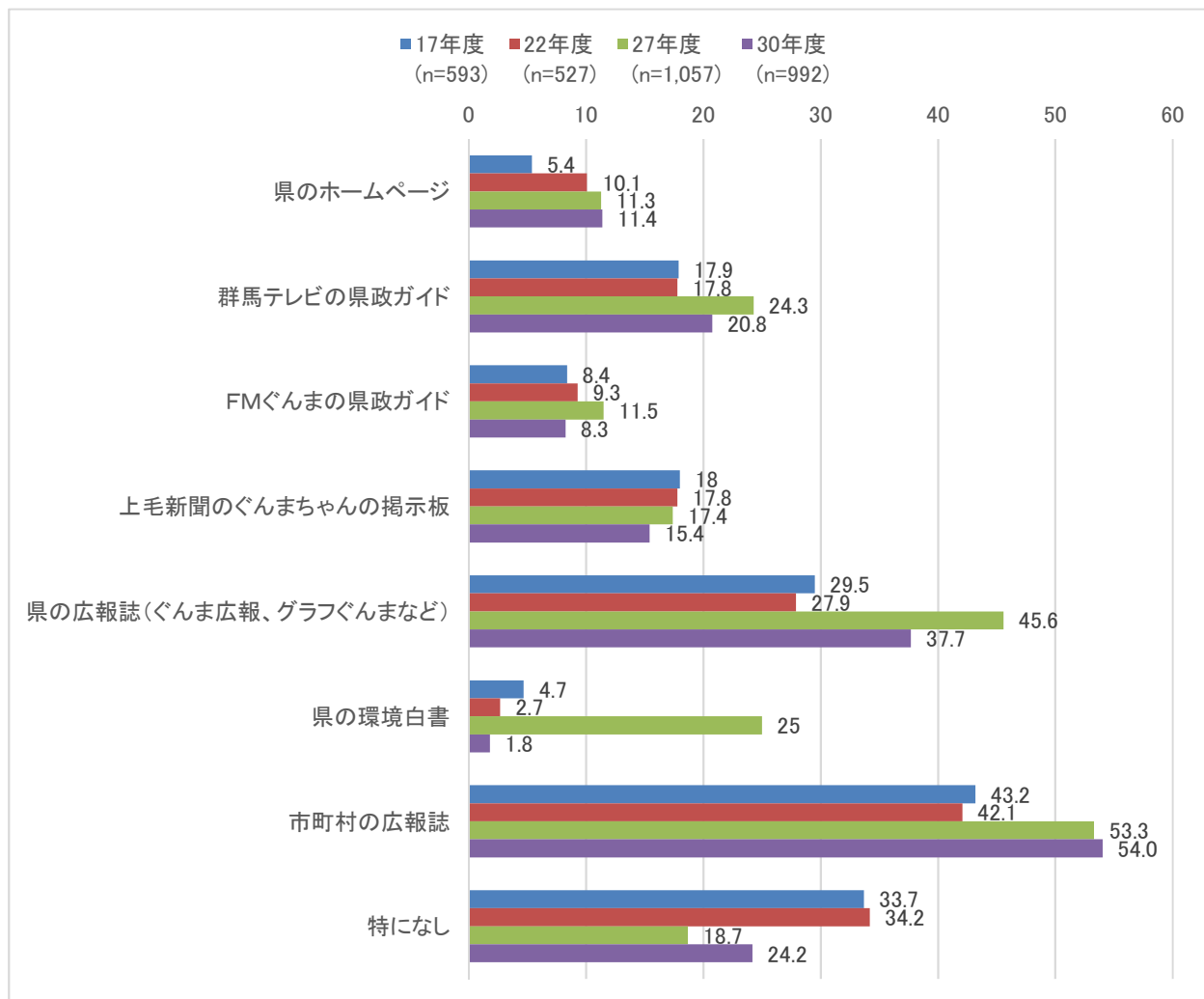
(1) 経年推移



<グラフ 7 環境問題に関する情報源 経年推移>

- 群馬県の発信する環境に関する情報源は、「市町村の広報誌(54.0%)」。
→ 「県の広報誌(37.7%)」「群馬テレビの県政ガイド(20.8%)」は、前回より減少した。

(1) 経年推移

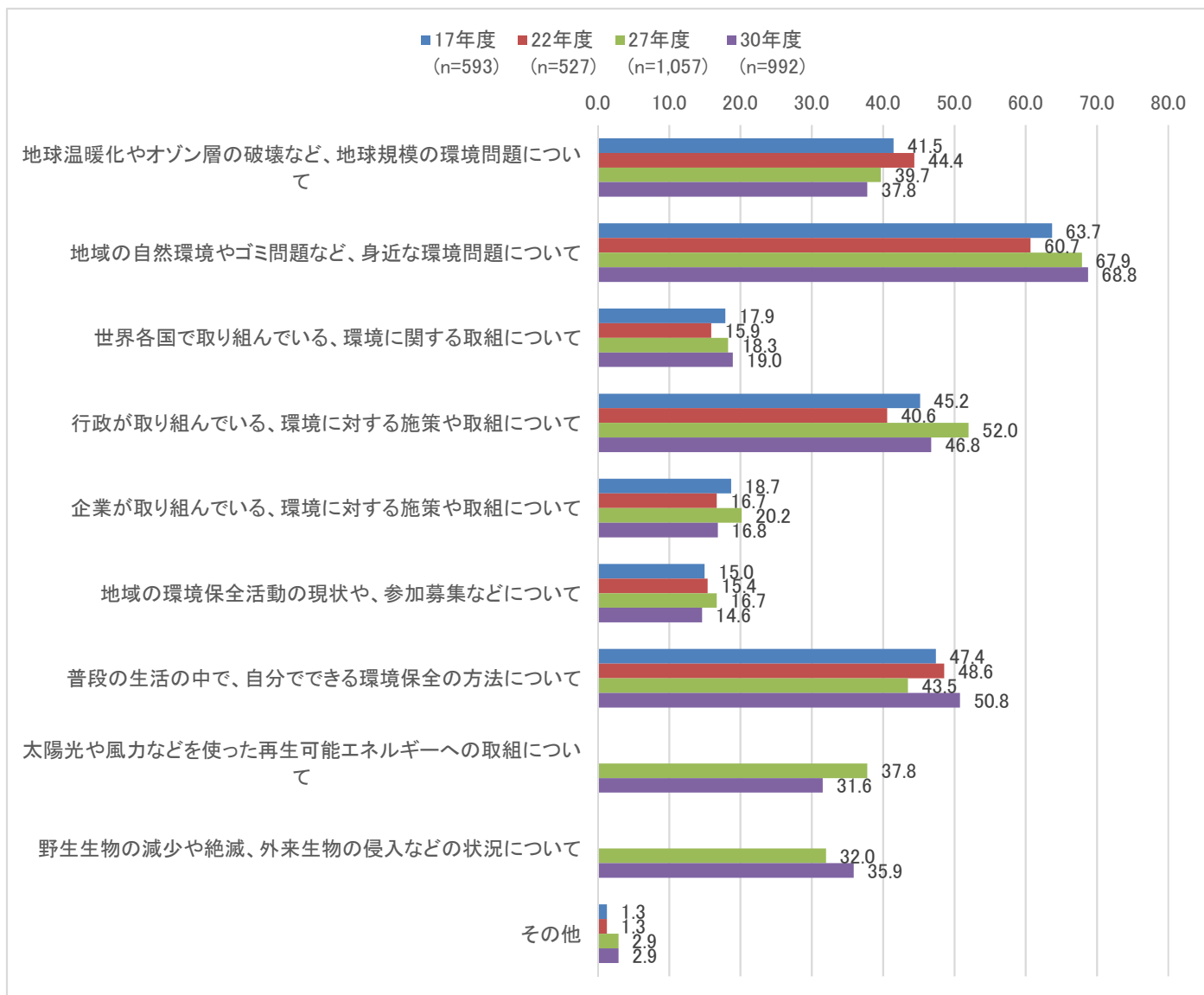


<グラフ 8 県の環境に関する情報源 経年推移>

□ 今後、知りたいと思う環境情報は、「身近な環境問題(68.8%)」「自分でできる環境保全の方法(50.8%)」「環境に対する施策や取り組みについて(46.8%)」。

(1) 経年推移

※「太陽光や風力などを使った再生可能エネルギーへの取組について」「野生生物の減少や絶滅、外来生物の侵入などの状況について」は27年度からの項目



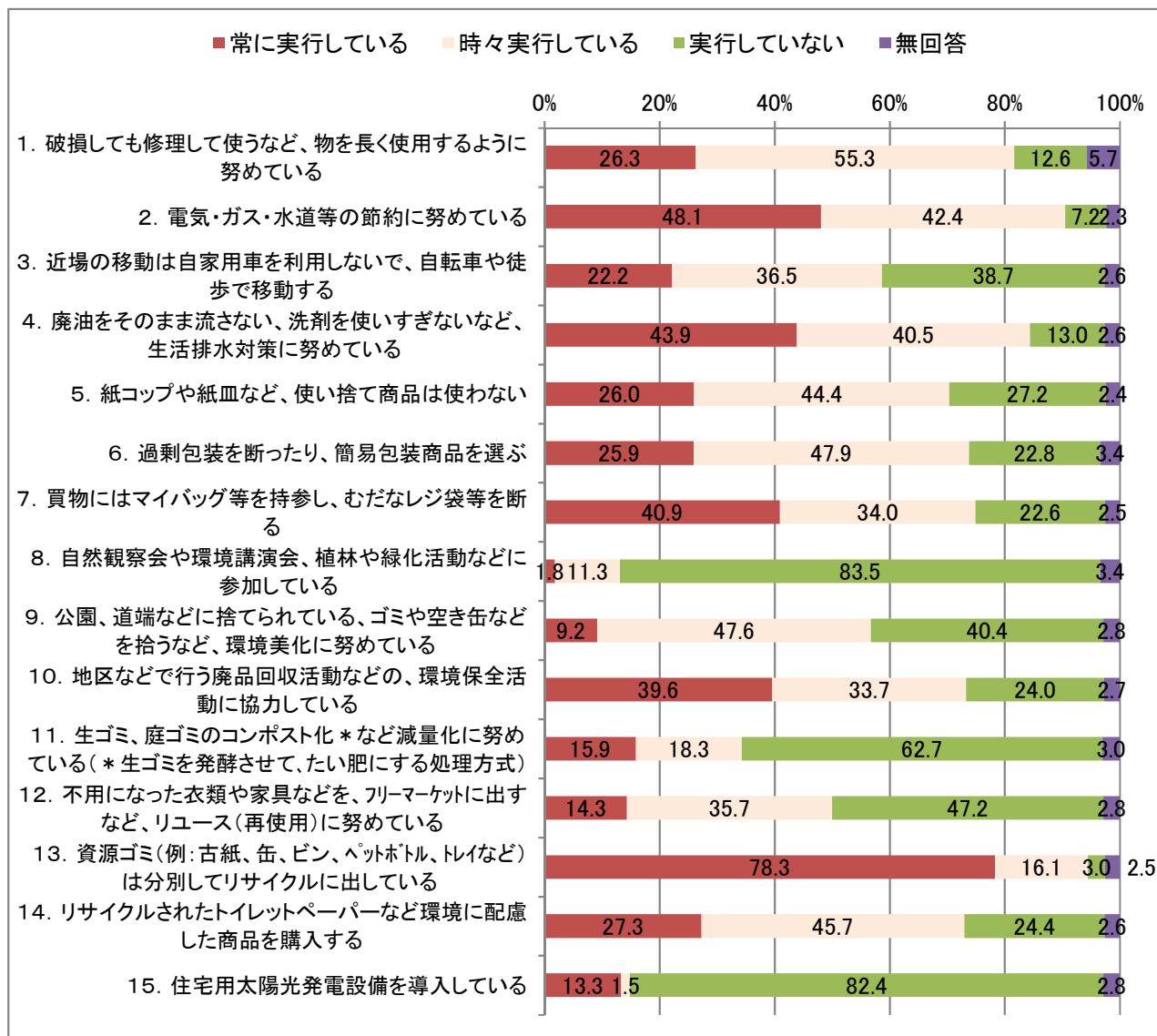
<グラフ 9 今後、環境に関するどのような情報を知りたいか 経年推移>

IV 取組

□ 環境保全のために実行されている取組は、「資源ゴミは分別してリサイクルに出している(94.4%)」「電気・ガス・水道等の節約に努めている(90.5%)」。

(1)30年度の傾向

《現在》

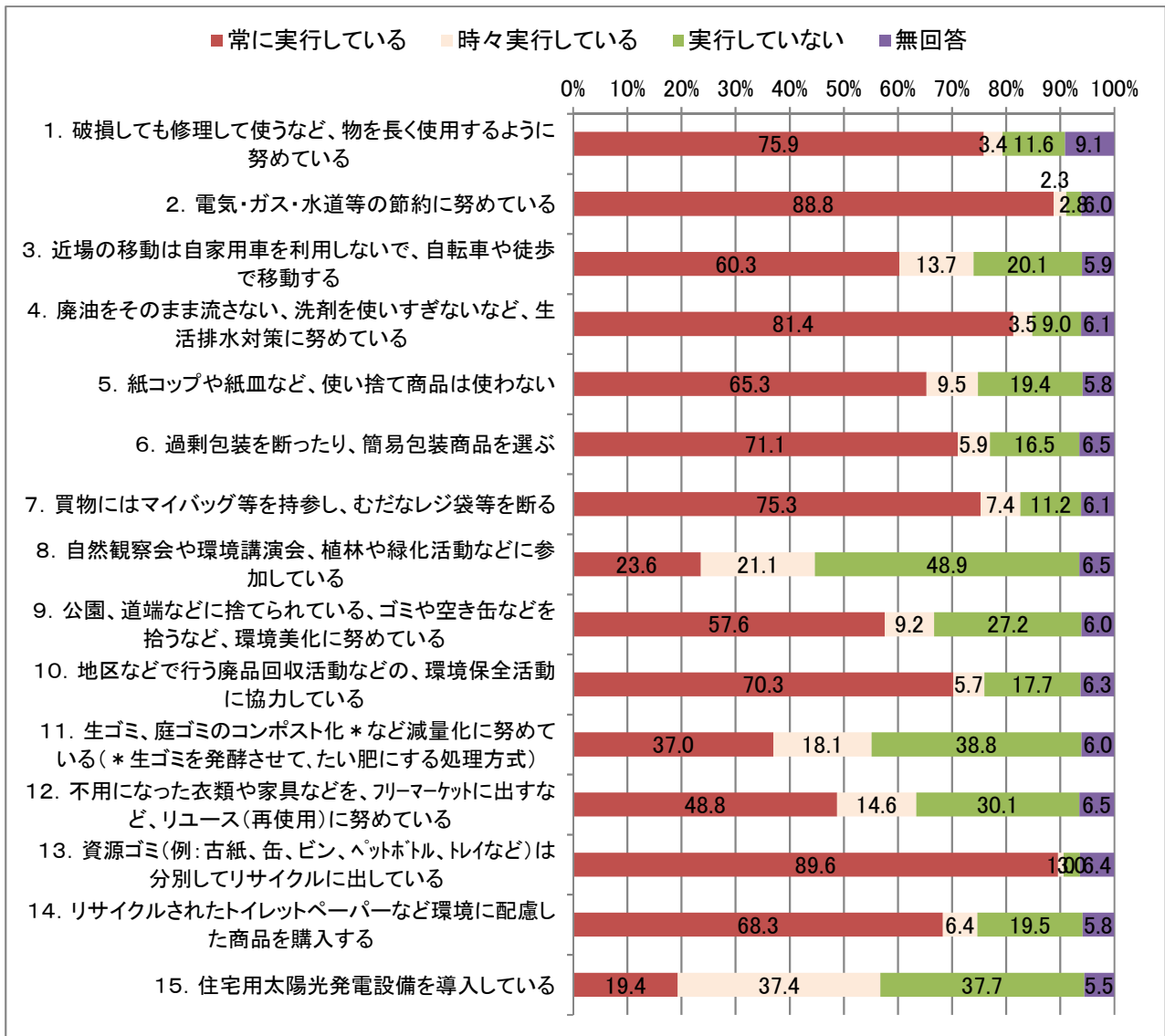


<グラフ 10 環境保全に対する取組 現在>

□ 環境保全に対する取組意欲は高い。

→ 「資源ゴミは分別してリサイクルに出している(89.6%)」「電気・ガス・水道等の節約に努めている(88.8%)」「廃油をそのまま流さない、洗剤を使いすぎないなど、生活排水対策に努めている(84.9%)」「買い物にはマイバッグ等を持参し、無駄なレジ袋を断る(82.7%)」の合わせて4項目で、8割以上が「今後も(今後は)行っていきたい」と回答。

《今後》



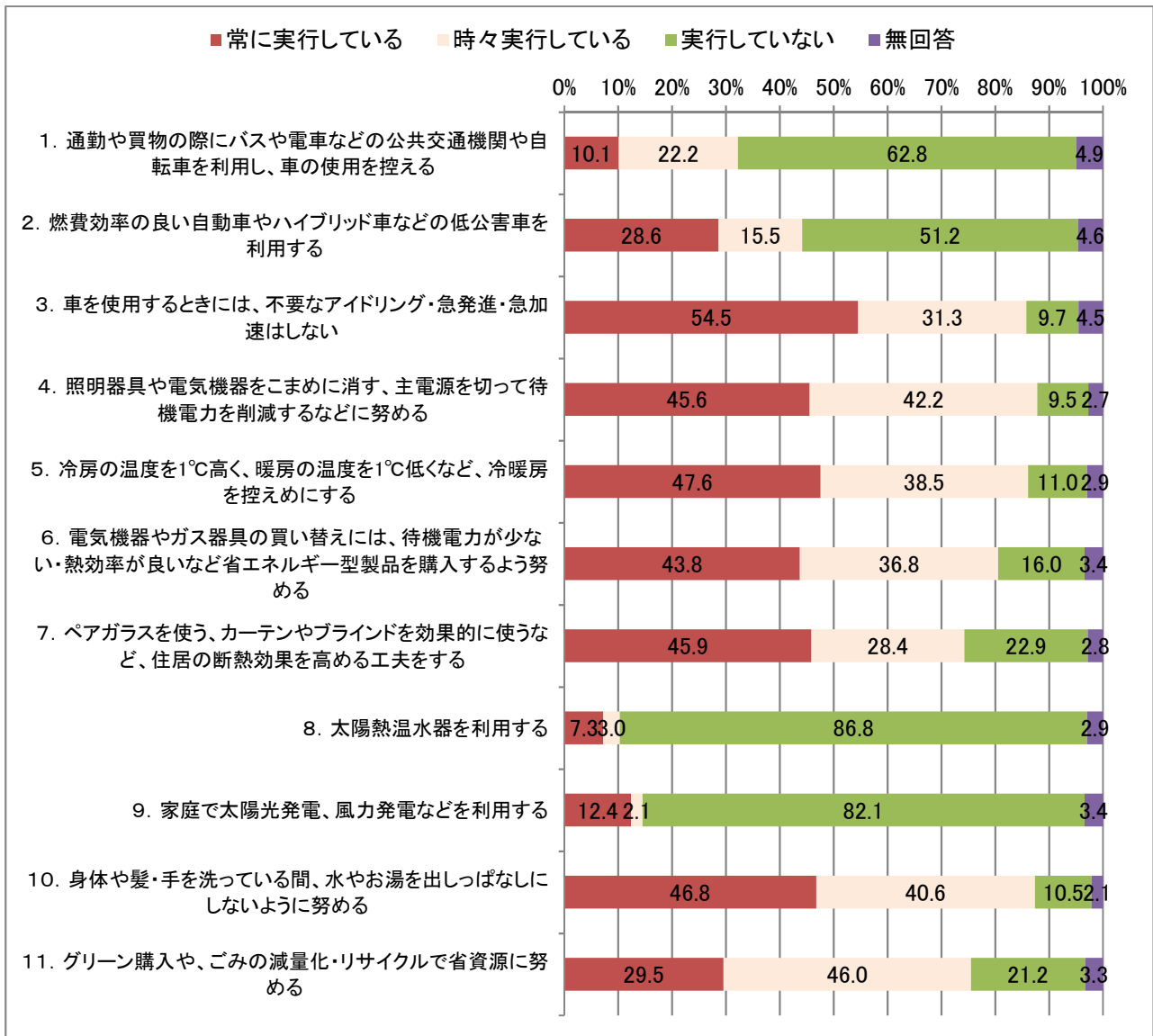
＜グラフ 11 環境保全に対する取組 今後＞

V 地球温暖化防止

□ 地球温暖化防止のため実行されている取組は、「照明器具や電気機器をこまめに消す、主電源を切って待機電力を削減するなどに努める(87.8%)」「身体や髪・手を洗っている間、水やお湯を出しっぱなしにしないように努める(87.4%)」「車を使用するときには、不要なアイドリング・急発進・急加速はしない(85.8%)」「冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低くなど、冷暖房を控えめにする(86.1%)」が8割を超えている。

(1)30年度傾向

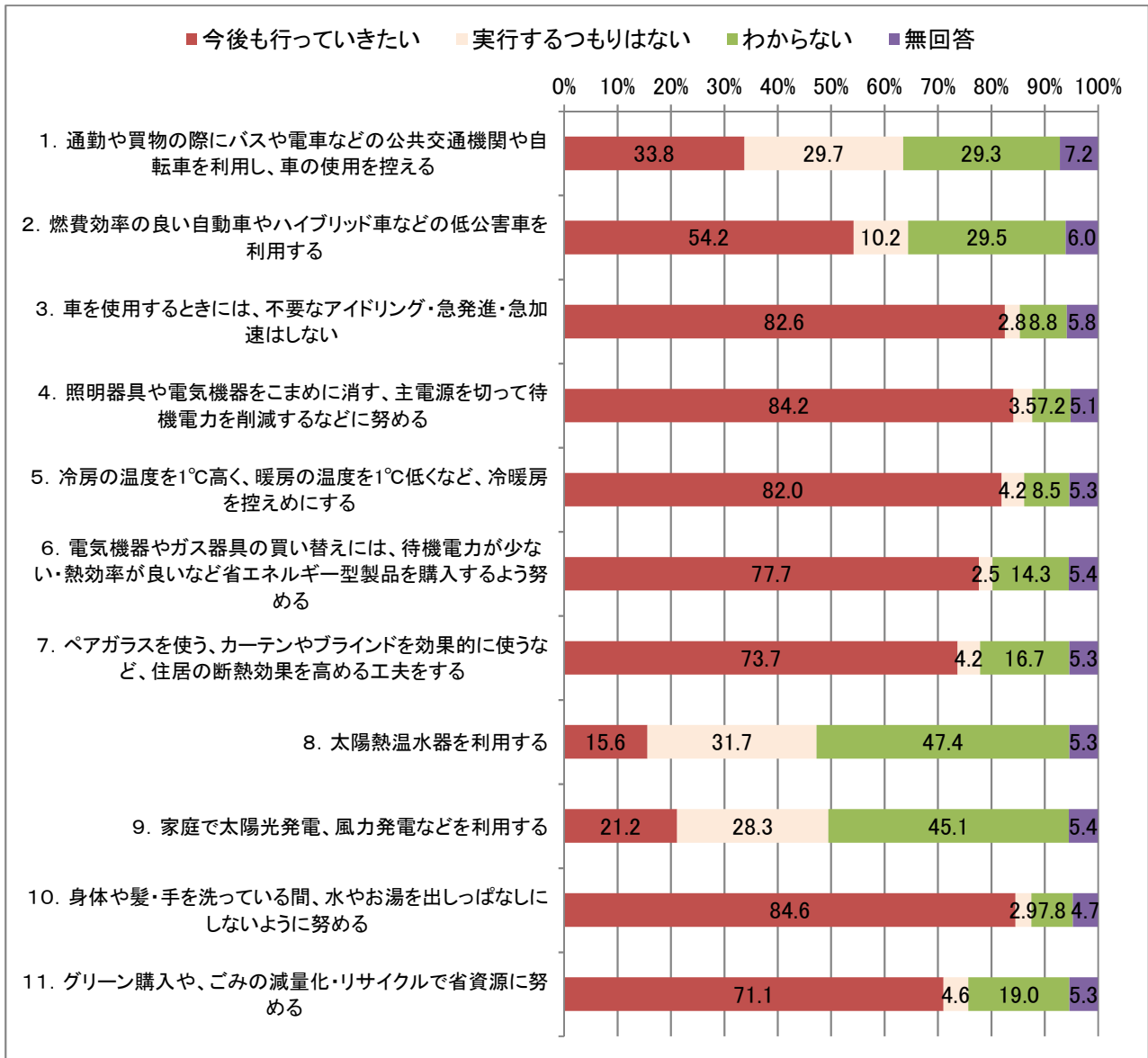
〈現在〉



〈グラフ 12 地球温暖化防止のための心がけ 現在〉

- 今後も(今後は)行っていきたい取組は、「身体や髪・手を洗っている間、水やお湯を出しっぱなしにしないように努める(87.5%)」「照明器具や電気機器をこまめに消す、主電源を切って待機電力を削減するなどに努める(87.7%)」

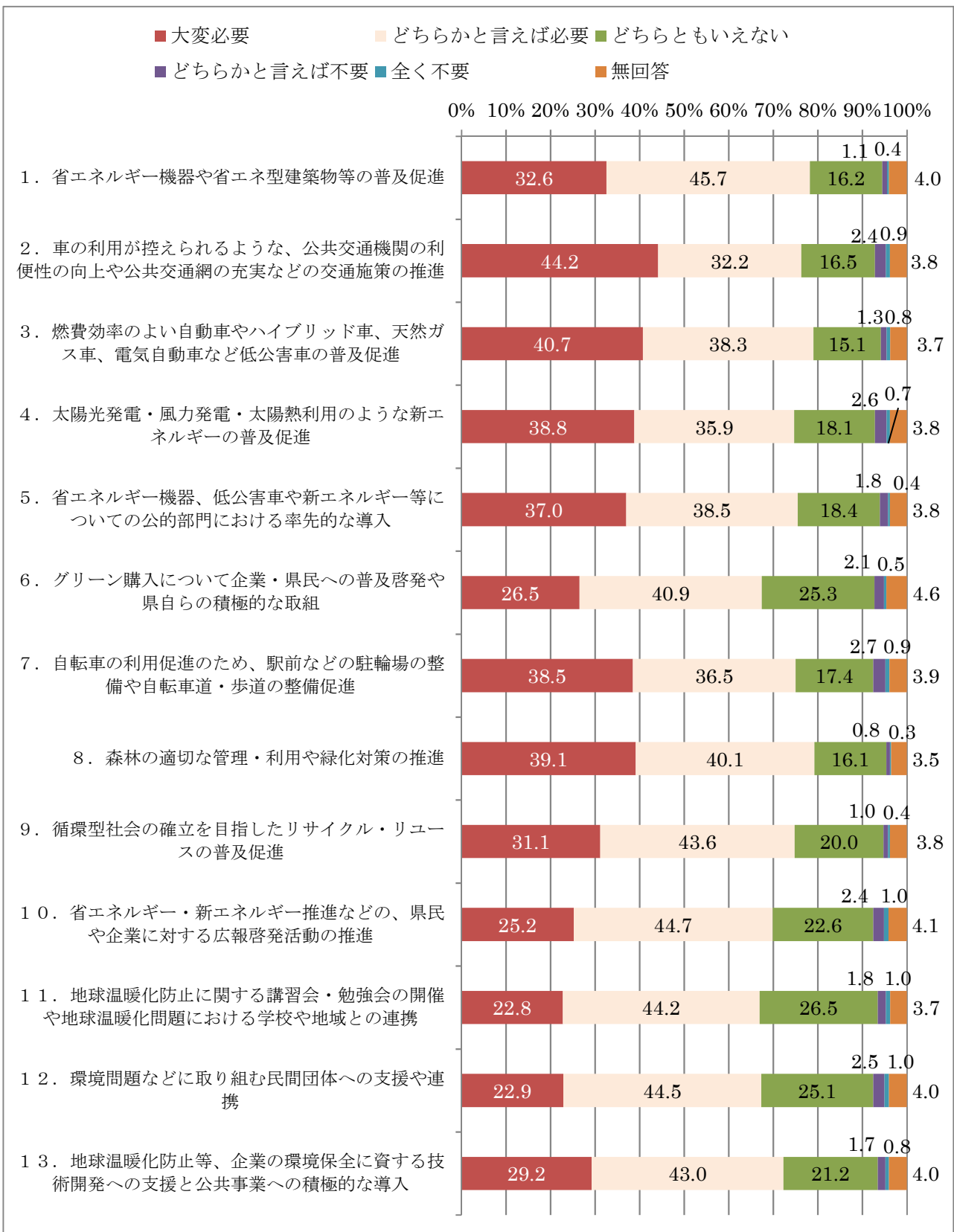
《今後》



<グラフ 13 地球温暖化防止のための心がけ 今後>

□ 県に求められる取組は、「車の利用が控えられるような、公共交通機関の利便性の向上や公共交通網の充実なおの交通施策の推進(44.2%)」「燃費効率のよい自動車やハイブリッド車、天然ガス車、電気自動車など低公害車の普及促進(40.7%)」。

(1)平成 30 年度の傾向

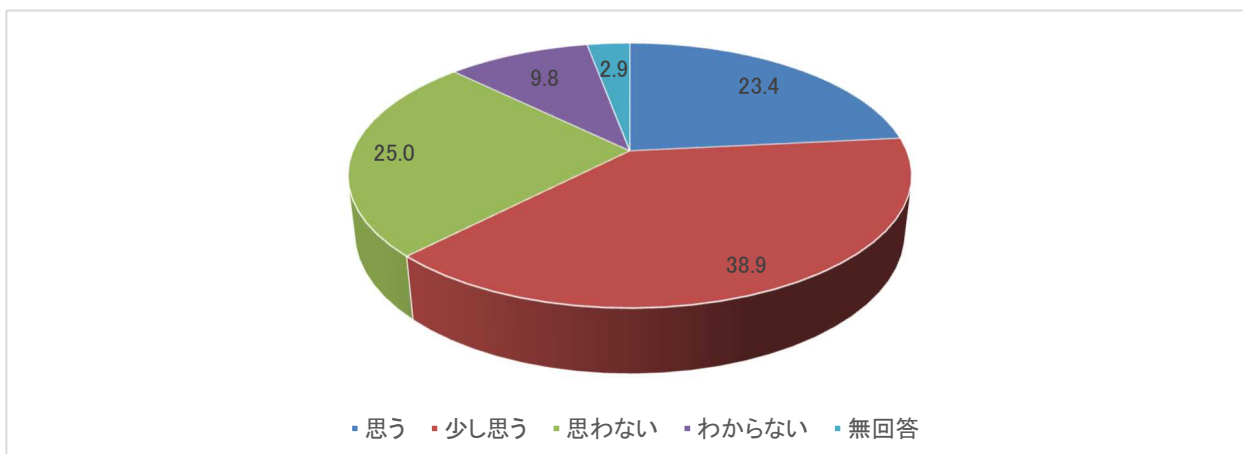


<グラフ 14 地球温暖化防止のために県に求められる取組>

VI 生物多様性の保全

□ 約7割弱が、身近な自然環境が「少なくなった(62.3%)」と感じている。

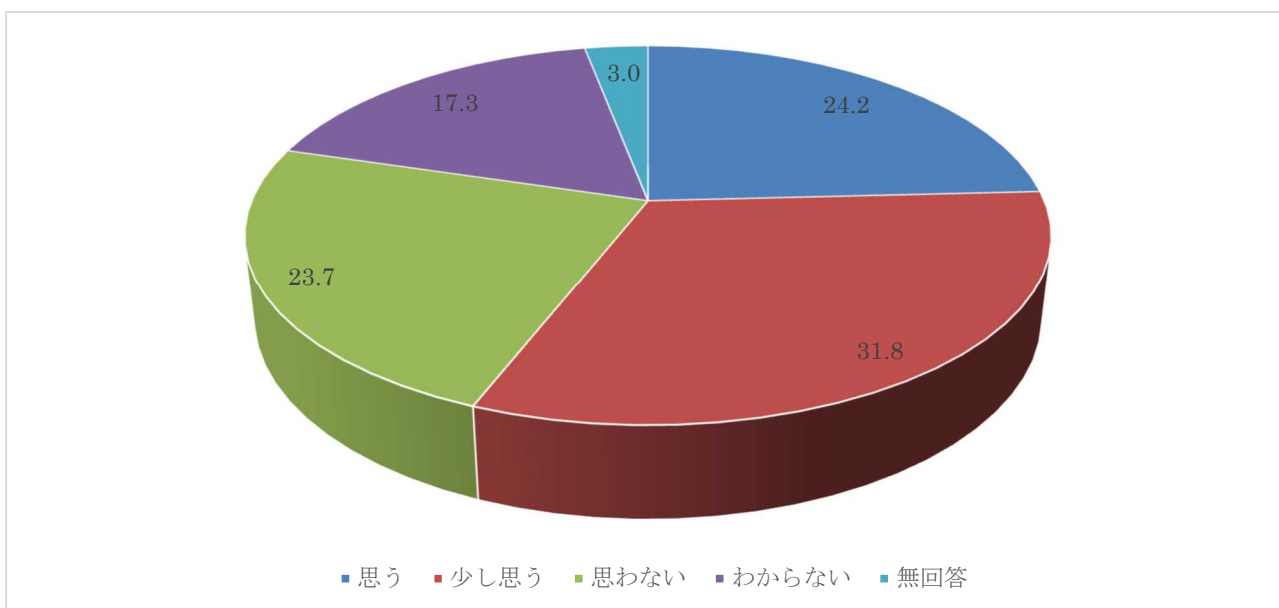
(1)30年度の傾向



<グラフ 15 5、6年前と比べて、身近な自然環境の変化>

□ 約5割5分が、身近な植物や動物の種類が「変わってきた(56.0%)」と感じている。

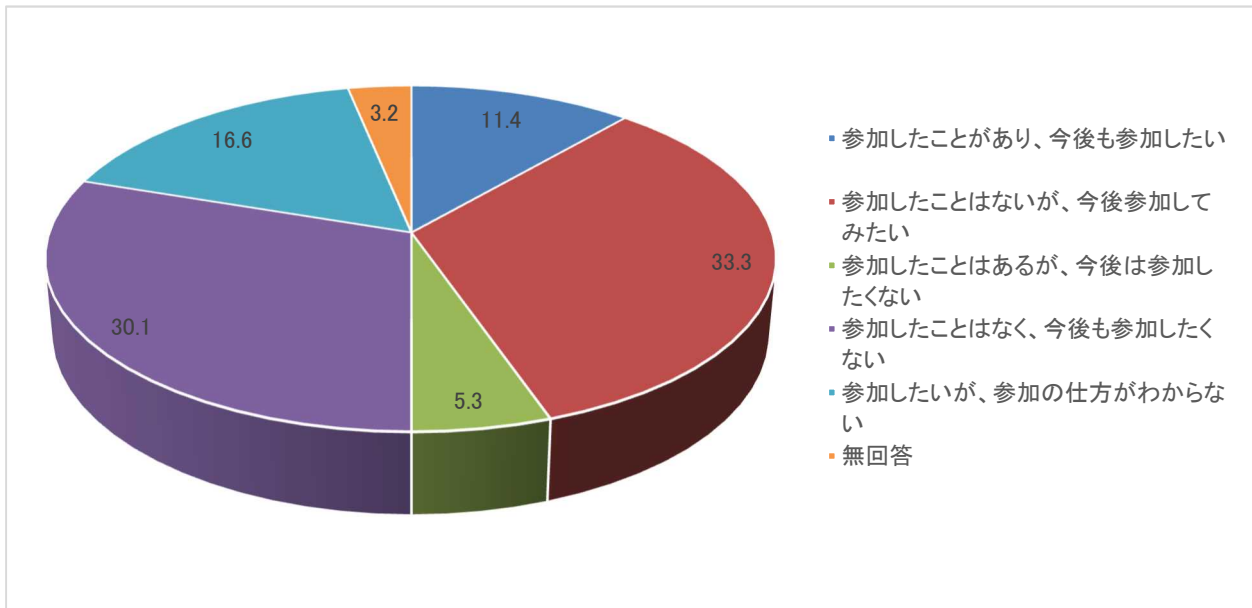
(1)30年度の傾向



<グラフ 16 5、6年前と比べて、身近な植物や動物の変化>

- 約1割が、【自然環境】を保全する活動に「参加したことがある(11.4%)」。
- 約3割が、「参加したことはなく、今後も参加したくない(30.1%)」。

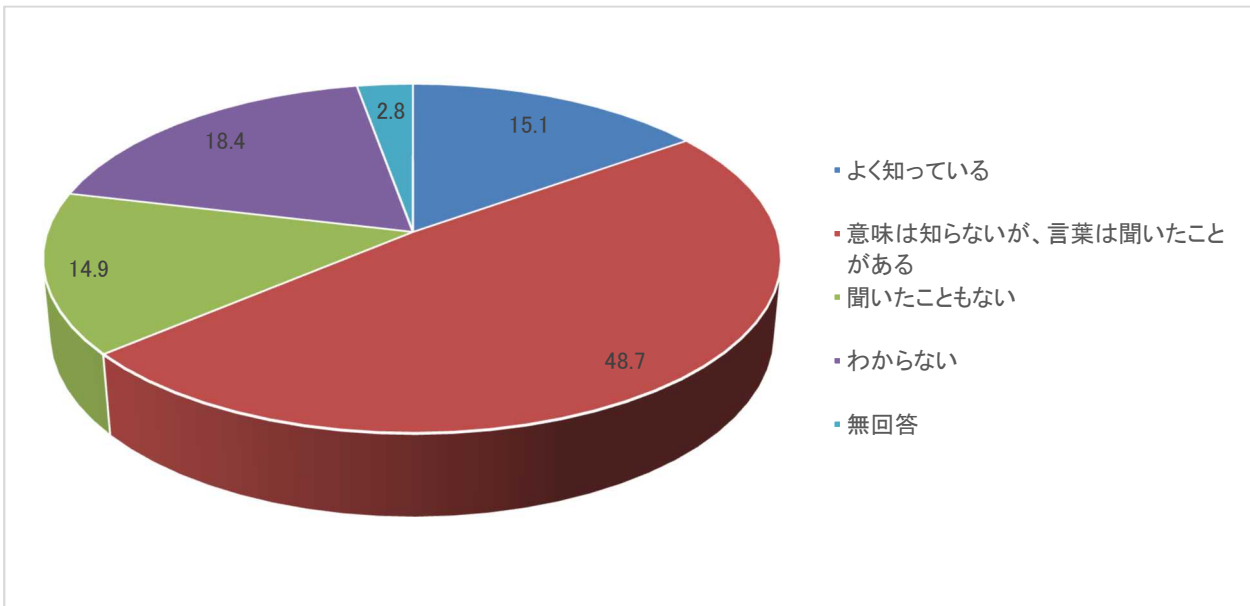
(1)30年度の傾向



<グラフ 17 「自然環境」を保全する活動に参加したことはありますか>

- 約1割5分が、【生物多様性】という言葉を知っている(15.1%)。
- 【生物多様性】の危機について、周知する必要がある。

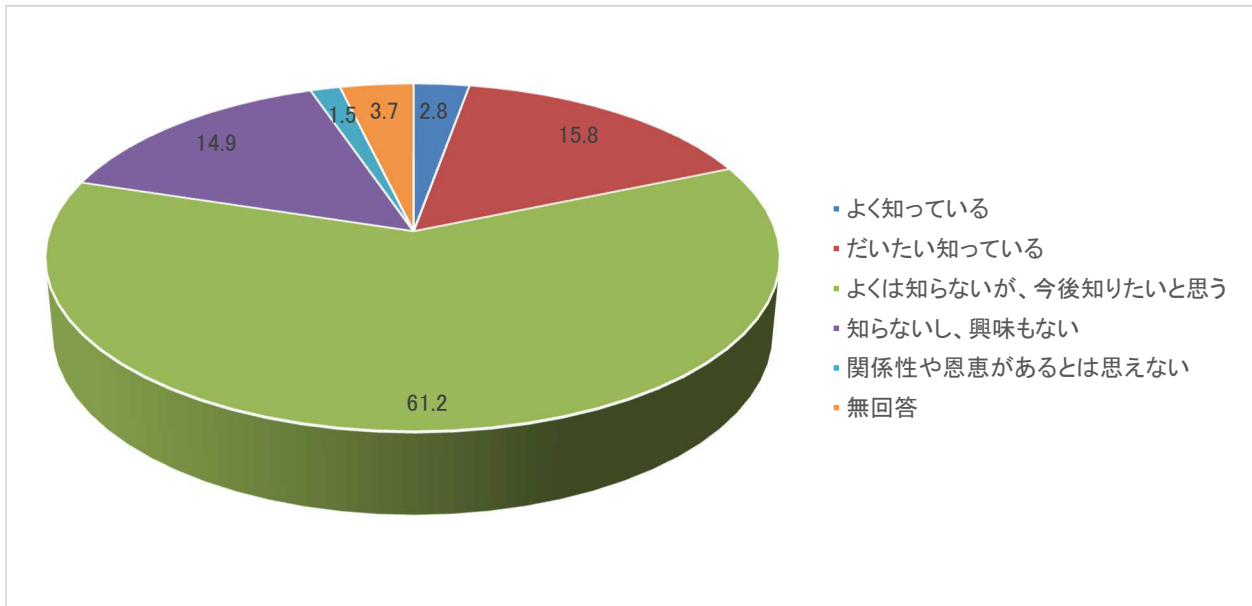
(1)30年度の傾向



<グラフ 18 「生物多様性」という言葉を知っていますか>

- 約6割強が、【生物多様性】について「よくは知らないが、今後知りたいと思う(61.2%)」。
→ 約8割が、【生物多様性】に関心がある(79.8%)。

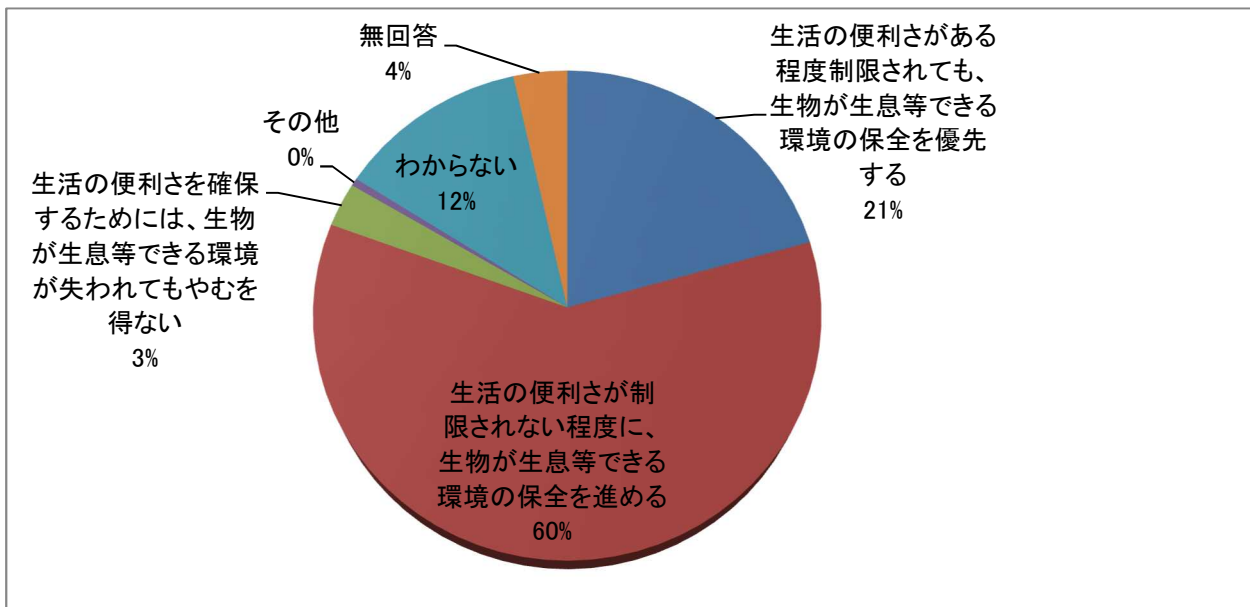
(1)30年度の傾向



<グラフ 19 生物多様性の危機と人間社会との関係性>

- 約6割弱が、【生物多様性】の取組は「生活の便利さが制限されない程度に、生物が生息等できる環境の保全を進める(60.0%)」と感じている。

(1)30年度の傾向



<グラフ 20 「生物多様性」の保全のために、どの取組を支持しますか>